

科学研究費補助金（若手研究（S））研究進捗評価

課題番号	19679008	研究期間	平成19年度～平成23年度
研究課題名	ヘパラン硫酸による神経堤細胞の分化制御機構の解明と緑内障の新しい病態概念の確立	研究代表者 (所属・職)	稲谷 大（熊本大学・医学部附属病院・講師）

【平成22年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
	A+ 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)	
<p>本研究は、緑内障発生機序におけるヘパラン硫酸の関わりに注目し、その分化制御機構を解明することで、最終的に緑内障手術の成績の向上を目指している。現在までに、ヘパラン硫酸合成酵素Ext1の遺伝子に対する神経堤細胞選択的コンディショナルノックアウトマウスを使った研究を行い、ヘパラン硫酸がTGFβ₂などの生理活性物質の作用を調整していることを示し、その抑制により、緑内障術後の癒痕形成が軽減される可能性を示した。当初の目標に向かって着実に結果を挙げており、それらは世界的レベルの学術雑誌などに報告されている。最終目的である緑内障手術の成績の向上に発展できると判断され、今後の成果が十分期待される。</p>	

【平成24年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果と比べ、平成22年度及び23年度は、期待されたほどの成果が挙げられていない。研究進捗状況報告書にも記載されているが、ヘパラーゼトランスジェニックマウスが後天的緑内障のモデルとしては適切でなかったことが一因であると考え、新たなトランスジェニックマウスを用いて検証すると記載している研究の進捗が全く記載されておらず、この点で最終目的である緑内障手術成績の改善につながる研究成果が挙げられていないと判断せざるを得ない。
B	<p>また研究成果の発表についても、本研究テーマに関係する研究論文は2010年が最後である。</p> <p>以上の点から、平成19年度から21年度の間は、初期の研究目的に沿う研究成果が認められるが、最終的に十分な研究成果が得られたとは言い難い。</p>